

# 首都圏営業拠点「三重テラス」の概要

三重県では、平成25年の神宮式年遷宮や、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を迎える機会を生かすため、平成25年9月(予定)に東京日本橋に首都圏営業拠点「三重テラス」をオープンします。

首都圏営業拠点「三重テラス」を核に、「食」や「観光」、「歴史」、「文化」、「産業」など三重の魅力の情報発信、三重ゆかりの店舗や企業等との連携など、さまざまな人々との交流や感動との出会い、新しいアイデアの創出などにつながる営業活動を総合的に進め、県内への観光誘客や県産品の販路拡大につなげていきます。



## 建物名称

「浮世小路千疋屋ビル」  
商業施設名「YUITO ANNEX」

## 所在地

東京都中央区日本橋室町2丁目4番1号  
(東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前駅」地下直結)

## 構造・規模

鉄筋コンクリート造・地上9階、地下2階

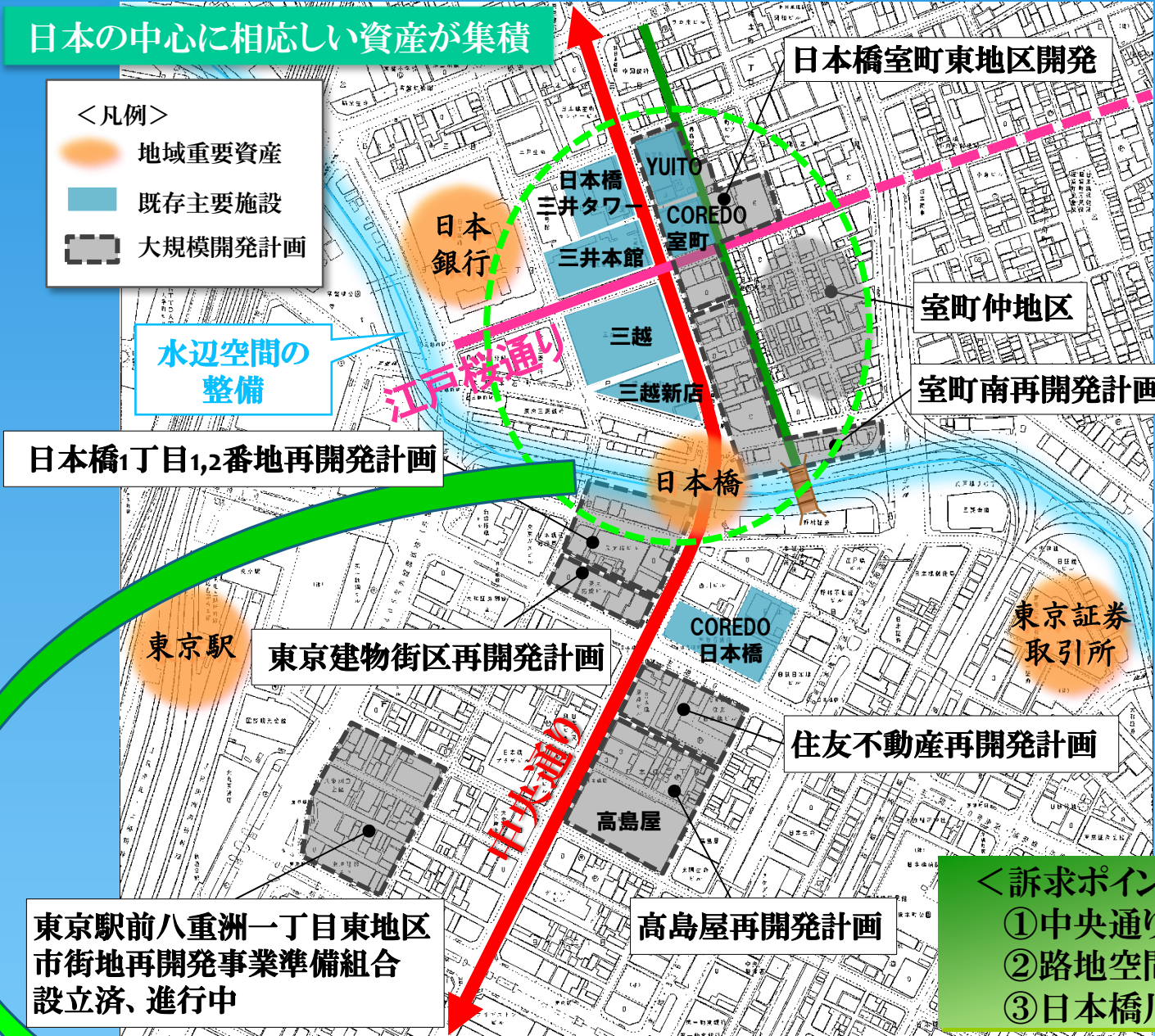
## 賃借部分及び面積

1階 62.70坪(207.26㎡)  
2階 72.38坪(239.29㎡)  
計 135.08坪(446.55㎡)

# 日本橋再生計画

日本橋は、徳川家康によってすべてのものが江戸城の目前に集まるように緊密に図られた日本初の計画都市であり、金融・商業・物流・娯楽の中心として栄えたまさに日本の中心地でした。

現代の日本橋に当時の賑わいを再興。さらに新たな魅力を創出する街づくりを目指し、日本橋地域では官民地元が一体となって「残しながら、甦らせながら、創っていく」をコンセプトに「日本橋再生計画」が進められています。



- <訴求ポイント>
- ① 中央通りのセントラル・アベニュー化
  - ② 路地空間の界限性の創出
  - ③ 日本橋川の水辺空間の再生



# 基本コンセプト

- ≫ 三重の文化にふれてもらうおもてなしの場
- ≫ 三重への旅のきっかけ、準備を提供する場
- ≫ 三重への共感を呼ぶ、三重ファンづくりの場
- ≫ 三重県民、県出身者などが「自分ごと」として活用できる場

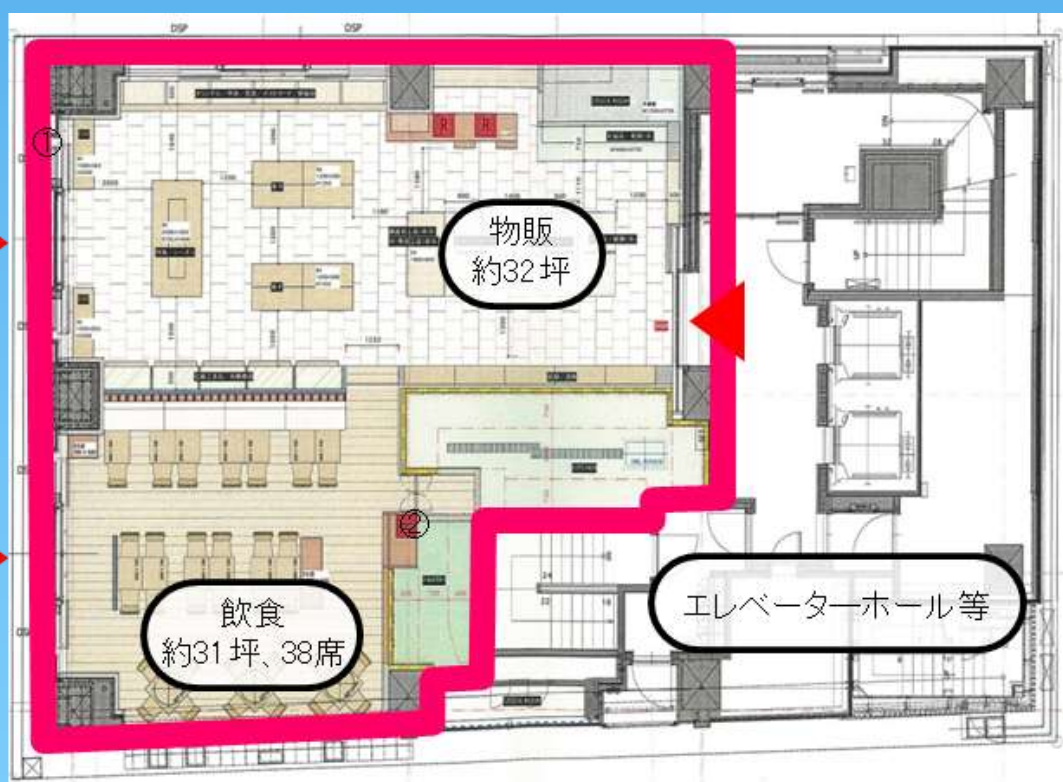
# 基本的機能

- ≫ 「食を提供する機能」 (1階部分 約31坪 38席程度)
- ≫ 「商品を買っていただく機能」 (1階部分 約32坪)
- ≫ 「三重の魅力を体験できる機能」 (2階部分 48席程度)
- ≫ 県内への「誘客・集客機能」
- ≫ 県内企業を支援する「トリアル機能」
- ≫ 三重に関わる人々を増やしていく「ネットワーク機能」

## 1階イメージ

### イメージ図について

今後、三重の魅力的な素材や伝統工芸品等の活用に応じて(什器、壁など)、色合いや形状などが変更されます。



1階物販スペースイメージ



1階飲食スペースイメージ



## 2階イメージ



2階多目的ホールイメージ



外観イメージ



# 日本橋と三重

日本橋は、かつて多くの伊勢商人のお店が軒を連ねた場所であり、今なお、三重ゆかりの企業が沢山あります。また、日本橋から伊勢神宮のルートは、江戸時代の旅文化のゴールデンルートでした。このように歴史的にも三重県との関わりが深く、日本橋という場所には、首都圏、さらには世界とつながる三重の新しい玄関口としての思いがこめられています。

## 伊勢商人



江戸駿河町三井越後屋の店内



江戸大伝馬町の木綿問屋

当時の江戸の町には「伊勢屋」を始め、「越後屋」「丹波屋」など、伊勢商人の店が軒を連ねていたようです。これらの店は「江戸店」といって、東京支店とでもいうようなもので、「江戸店」持ちということが伊勢商人の特色でした。

松阪の城主・蒲生氏郷は近江日野の出身で、近江商人を育てた人でもあり、この氏郷の商業保護政策や、広い木綿生産地があったこと、伊勢参宮の人達によって貨幣経済が発達し、情報も入り易かったことなどから、多くの商人が松阪から出ました。有名な人には、越後屋呉服店・三井両替店の基を築いた三井高利、丹波屋(長谷川)次郎兵衛、小津屋清左衛門などがいます。国学者本居宣長も、実はこういった伊勢商人の家の出身でした。彼らはそれぞれ、画期的なアイデアで商売を成功させました。

## お伊勢参り



日本橋



文政のおかげ参り

山田三方会合所の記録や本居宣長の『玉勝間』によれば、宝永2年の群参は50日間で362万人に達し、京都から起こった群参の波は、東は江戸、西は現在の広島県や徳島県にまで及ぶほどでした。次の明和8年の「おかげまいり」の総人数は、不明確ですが、宮川の渡し人数から見ても200万人以上に達し、東北地方を除く全国に及んだと言われています。さらに、文政13年の場合は、約500万人が伊勢へ伊勢へと押し寄せています。

また、江戸時代の伊勢参宮の盛行は、単に民衆が自由を求めただけでなく、諸国の人たちの出会いと交流により、稲の品種交換・伊勢歌舞伎の振興等、様々な形で全国の文化等に影響を及ぼしていたようです。

三重の文化ホームページ“歴史の情報蔵”より抜粋



お伊勢参りは旅文化の  
ゴールデンルート